

あわゆず ふれず

第30号 2014年11月10日発行

伝えよう日本語を
広げよう徳島から



J T M と く し ま
日本語ネットワーク

多様性を受け入れて生かす職場や地域社会をめざして ～親子の「働く」を見据えた日本語教育の挑戦～

「今日の職場体験学習をして思ったことは、この会社の一人ひとりが会社を思って働いていたことです。徳島県に住む一人ひとりの生活を便利にするにはどうすれば良いか、ここに橋があったらどんなに便利か、職場の一人ひとりの能力、技術力、人とのコミュニケーション、問題に対応できる力、協力、やる気、人を思う力を感じました。私たちの生活を便利にしてくれて、なんてすばらしい会社なんだろうと思いました。」

4月4日、徳島中央ロータリークラブとの共催事業として、株式会社フジタ建設コンサルタントにおいて外国にルーツを持つ7人の子どもの職場体験学習を行いました。高校2年生のフィリピンの女の子が綴ったこの感想文は、「働く」ことの意味を深く力強く問いかけてきます。

2014年度、外国にルーツを持つ子どもたちに学校への編入直後からの日本語学習支援等を行う「帰国・外国人児童生徒“いきいき”モデル事業」が、徳島県が予算を重点化する76モデル事業のひとつになりました。モデル事業の主たる財源は県民が働いて納めた税金であり、いずれ県民に還元されなければなりません。そう考えたとき、子どもたちが日本語を学び、学習能力を高め、進学し、仕事を心得、地域社会の一員として貢献できる人財となるよう、行政や学校、企業など地域が一体となって支援する役割と責任があるのだという思いに至ります。

今回の職場体験学習は、こうした趣旨から実現しました。子どもたちの感想文は、働く現場が何より子どもたちの意欲や可能性を引き出す力を持っていることを物語っています。習得した日本語を駆使して人とつながり、人に喜ばれる経験をし、できることはもちろん、頑張ればできそうなこと、さらには不可能に思えることにもチャレンジして持てる能力を発揮してほしい。そのために日本語教育が果たす役割は大きく、私たちの挑戦も続きます。

もう一方で今年度、これまで制度の隙間にあった、子どもたちを育てる保護者を始めとする定住外国人の「働く」を見据えた支援が、徳島県より委託を受けJTMの事務局を置く公益社団法人徳島県労働者福祉協議会において「定住外国人の就労・社会参加事業」として実現しました。2009年度より実施していた職場で通用する中級レベルの日本語やビジネスマナーを学ぶ「就職のための日本語講座」と、介護現場で必要とする日本語や心構えを学ぶ「介護の日本語講座」に加えて、介護資格取得講座やパソコン講座、職場実習等、より就労につながる取組が実施されることになりました。それとともに、行政機関、就労支援機関、経済団体、福祉事業団体、相談機関、日本語教育機関等から構成される連絡協議会が設置され、定住外国人の生活支援から就労支援まで切れ目のない支援体制を関係機関が連携して整備する環境が整ったのです。これにより、公益財団法人徳島県国際交流協会が実施している日常生活（初級）レベルの日本語講座開催事業との双方向の連携による日本語支援のいっそうの充実も期待されます。

現在、フィリピンと中国、ブラジルの15人の受講生が3カ月にわたる介護職員初任者の資格取得講座に挑んでいます。ルビのない難解な介護の教科書に頭を抱えていますが、同じ期間、週2回開催されている「漢字学習講座」で、支援者とともにテキストの読み込みや専門用語の学習に励んでいます。目標を見据えたその表情は明るく、私たち日本語支援者もその明るさに助けられ、たゆまぬ努力に励まされ、ひたむきな挑戦に奮い立たされ、必要とされている喜びを感じながら伴走しています。

政府は本年度、女性の活躍推進を重点政策に掲げ、新たな法制度と関連する施策を次々と打ち出しています。人口減少や少子高齢化が一段と進む本県でも今後、女性が働きやすい環境づくりが進んでいくことでしょう。私たちはその先にある、女性はもとより、男性も、高齢者も、障がい者も、外国人も、誰もが自分らしい働き方や生き方ができる、多様性を受け入れて生かす職場や地域社会の姿を見据えて、日本語支援者として今できることに最大限の挑戦をしていきたいと思えます。（JTMとくしま日本語ネットワーク会長 兼松 文子）

にほんご寺子屋の取組 職場体験学習

と き 2014年4月4日(金) ところ 株式会社フジタ建設コンサルタント(板野郡北島町鯛浜)
参 加 高校生2名、中学生2名、小学生3名、スタッフ8名
主催：JTMとくしま 共催：徳島中央ロータリークラブ 後援：徳島県教育委員会

春休みも終盤の4月4日、にほんご寺子屋の課外活動として、橋や道路の建設設計や土木調査を行っている株式会社フジタ建設コンサルタントにおいて職場体験学習を行いました。担当の方と事前の打ち合わせを重ね、社員の方々と名刺交換や挨拶を交わし、業務の一端を体験し、社員の方々にインタビューを行い、感謝の気持ちを伝えあうなど、2時間のプログラムを組み立てました。

参加希望者にはあらかじめアンケートを配り、それに答えることで「働く」ということに対する意識付けを促しました。また訪問する会社に興味を持てるように身近な橋や道路のことを尋ねる項目を入れました。当日は2時間前に集合し、事前学習会を行い、あいさつや名刺交換の仕方を学び、社員の皆さんにインタビューをする質問を考えて準備を整えました。

徳島駅前よりバスに乗り20分、目指す会社に到着しました。玄関で数名の社員の方と担当の藤田主任さんが笑顔で迎えてくれました。さっそく子どもたちは事前学習の成果を発揮し、「よろしくお願ひします。」と元気にあいさつをしました。すぐに写真を撮ってくださり社員証を作りました。**タイムカード**を押し、できあがった社員証を首に掛



け、社員の一員となることができました。子どもたちの顔は、誇らしさと同時に、少し緊張感が出て気持ちが引き締まってきているように見えました。

藤田主任さんは、子どもたちが会社の中で実際に体験できる場をたくさんご用意くださっていました。名刺作り、**パソコン操作、大型図面印刷、書類**

配達と名刺交換など盛りだくさんで、子どもたちは生き生きと動いていました。社員の皆さんへの**インタビュー**では、お仕事の手を止めて快く対応してくださいました。そして最後に藤田主任さんから子どもたちに向けて、仕事に就くとい



うことはどんなことか、将来に対して夢を持ち続けることがどれだけ大切であるかなど、心に届く温かい**「贈る言葉」**をいただきました。当日の子どもたちの活躍はテレビトクシマと徳島新聞に取り上げられました。

この取組は、子どもたちにとって貴重な体験になりました。事後の感想では、将来自分が就きたい仕事について明確にイメージが持てるようになっていたり、夢を持って生活をしたいという前向きな気持ちが表れたりしていました。

後日、藤田主任さんから修了証が届きました。常に子どもの立場に立って考えてくださったお心遣いに感謝の気持ちでいっぱいになりました。(杜 美智)



贈る言葉

はたらく(しごとをする)ということ

はたらくことは、いままでのせいから、まったくしらない“ぼうけんのせいかい”にとびだすということです。たのしいことばかりではなく、つらいことや、くるしいこともあるけれど、はたらくこと、ひとのやくにたつことでしか、かんじられないことは、たくさんあります。だから、みなさんはこわがらずに、この“ぼうけんのせいかい”にとびだしてください。たいせつなのは、じぶんをかえる“ゆうき”です。



※本事業は、国際ロータリー第2670地区ロータリー財団委員会新地区補助金の支援を受けて実施しました。

就職のための日本語講座

5月20日から7月14日まで、計40回、120時間の講座が終了しました。

受講生は中国の方8名、ポルトガル、ブルガリアの方各1名で、就職や日本でのこれからの生活に向けて、日本語をさらに勉強したいと参加されました。

授業では「尋ねる・確かめる」「電話で連絡する」「相談する・提案する」など仕事の場面を設定し、語彙や表現を学んでいきました。また、仕事の場面での役に立つマナーも合わせて学習しました。

受講生は仕事や家事、子育てに追われながらも毎日教室へ通ってきました。日本語の難しさに挫けそうになったときは、共に学ぶ受講生や講座を開催している徳島県労働者福祉協議会のスタッフの方の声に励まされ、無事修了式を迎えることができました。

これからの徳島での生活が受講生達にとってよりよいものになるよう、応援し続けていきたいと思います。

(加村 匡子)



授業風景



就職のための日本語講座 修了式

就職のための日本語講座における「あゆみ」考

受講生の「あゆみ」(スタッフとの交換日記)と、宿題として出した初級日本語文法のチェックをするよう依頼があり、一抹の不安を抱きつつもお引き受けしました。不安要因の一つが「あゆみ」にコメントを書くことでした。それは全く経験がありませんでした。さらに私にしては長距離を、夏の真昼に40日間通わねばならないということでした。

いざ講座が始まり、最初に学習者の「あゆみ」に目を通した時、まさしく不安の中。「え〜、何とコメントしよう。」と考えながら二人目の冊子を開き、考えはまとまらず、次々とその日提出された「あゆみ」を全て読みました。そこには、当日の講師の方への感想や、この講座に取り組む意気込みなどが綴られていました。しかし、短い文章の中に助詞や表現方法の微妙な間違いもあり、それをどこまで訂正すべきか躊躇していました。仕上げるまでにとっても時間がかかりましたが、日が経つにつれ、私自身リラックスして対応することができるようになりました。ある人には励ましをし、またある人からは質問を受けました。例えば、自動詞、他動詞の使い方の違い、子供への算数の教え方等々、答えやすい質問からどうにも意味不明の文章まで多岐にわたりました。書いて質問する、自分の思いを文字にすることという学習者にとって、まだまだとても難しい事なのだと思えました。学習者からは故事や慣習等を教えてもらうという小さな交流が始まりました。ことばの習得の中でも、とりわけ“書く”ことの難しさを実感した講座の支援でした。私にとっては拗音の発音の仕方を書いて教えなければならないという、紙面では正確に答えにくいとても難しい問題もありました。

この講座を通じて、今後私が日本語ボランティアとして携わっていく上での大きな課題も見つけることができました。このような機会に出会い、チャレンジできたことをとても嬉しく思っています。折あらば会員の皆さんもぜひ一度経験してみてください。普段の支援では見えない何かを見つけることができると思います。

(木南 繁子)

徳島県アパレル縫製工業組合委託事業 日本語集合研修が今年で終了することになりました

徳島県アパレル縫製工業組合の日本語集合研修が、今年も雑賀町にある徳島県工業技術センターの会議室で8月7日から9月4日までお盆休みを挟み実施されました。JTM日本語指導部のメンバーが講師として、連日3時間、または6時間、実習生たちとともに日本語学習に熱く取り組みました。

実習生は、中国の西安から来た18名の若い女性たちです。とても明るく活発で、グループ活動では教室の外にまであふれ出す彼女たちの声が気になる場面が多々ありましたが、これから3年間日本で働いていくうえで、このパワーは彼女たちの大きな味方になることと思います。

さて、数年前までの実習生は、眼鏡をかけた人はほとんどおらず、皆長いストレートの髪を後ろで束ねていましたが、今年の実習生はショートカットの人、髪を染めている人、休み時間には携帯で音楽を聴いている人など、彼女たちの服装や持ち物、そして授業態度などから、中国の経済発展の目覚ましさを改めて実感しました。それを表すかのように、来日する実習生の数も2005年までは60人~70人、2009年までは40人~45人、2010年から昨年までは30人前後と推移し、ついに今年は18人と大幅に減少しました。

そして、大変残念なことに、実習生の来日する人数の減少により、来年度からは日本に入国後、県外の日本語研修機関で研修を済ませて、徳島に来県することになり、1997年から、18年間続いたこの徳島県アパレル縫製工業組合の技能実習生の日本語研修をJTMが実施するのは今年で最後となりました。

JTM日本語指導部にとって、多人数のクラスを教える経験を積むことができ、また教科書としてJTM発行の「こんにちはとくしま」を使用している唯一の教室でした。ここ数年は終了後に反省点を話し合い、1年かけて改善し、次の指導に臨むという日本語指導のあり方を部員全員で考える良い機会を与えてくれる場もありました。また、日本語教師を目指しているメンバーにとっては、アシスタントとして授業に参加し、日本語指導を体験しながら学



べる貴重な日本語研修の場でもありました。

今年度でこの日本語研修がなくなるのは本当に残念で寂しくなりますが、長年、JTMの日本語指導力を支えてくださったことに心から感謝いたします。

(玉置 房)



サマースクール 「夏休み子ども日本語教室」

日時 2014年7月22日～8月2日までの8日間
10:30～12:00

参加者 小学生26名 中学生3名 計29名 スタッフ24名



今年も徳島県の委託を受け、「夏休み子ども日本語教室」を開催しました。長い夏休みの間、日本語から離れた環境の中にいる子どもたちにとって、この教室は大切な日本語学習の場となっています。また、自分と同じように頑張っている仲間との出会いの場ともなっています。

子どもたちは朝10時30分から、元気よく挨拶をして、1時間の個別学習に入り、日本語学習や夏休みの宿題に取り組みます。また、その日のスピーチがあたれば、スピーチの内容を考えたり、アルバムに載せる自分の好きなことや将来の夢などを絵と文で書き上げたりもします。

個別学習後は、みんなが一緒に行く全体学習が30分間行われます。全体学習の始めに毎回2～3名が、好きなことや将来の夢などについて1分間スピーチをします。スピーチの後にいろいろなテーマで活動が行われます。初日は、個別学習の前に自己紹介をするゲームが行われました。絵や漢字カードで相手を探し出し、お互いに自己紹介をした後、みんなの前でペアごとに紹介をするゲームです。2日目からは、個別学習の後に行われました。「間違い探し」(持ち物や着る物の名前を覚え、取り替える前と違った所を言い当てるゲーム)、「街角でよく見かける標識を知ろう」、「クロスワードパズルの中にある動物の名前を探そう」、「読み聞かせ」(『おむすびころりん』『鶴の恩返し』折り紙で鶴を折ることもした)、「夏に関する言葉を覚えよう」、「三角、四角、丸などいろいろな図形を使って絵を描こう」、「動物の名前の拍数を当てよう」(カタカナ表記の動物名を知って、その言葉の拍数を当てるゲーム)、「果物・野菜ビンゴゲーム」などです。



全体学習は、日本語習得の違いや学年が違って、みんなが楽しめ、言葉の学習にもなり、また、日本の文化や身の回りのことを知ることによって、日本での生活がよりよいものになるようにという思いで工夫されたものでした。

この教室で頑張ったこと、仲間との交流、将来の夢などを書いた8日間の思い出がアルバムとなり、大切に持ち帰ってもらうことができました。元気に楽しく参加して、満足そうな笑顔で帰っていく子どもたちの姿を見て感慨深いものがありました。これからも各自それぞれの生活の場で、自信をもって活動して欲しいと思います。

(木内 ひろみ)

日本語 サロン



※日本語サロンは毎週月曜日の10:30~12:00まで、とくしま国際戦略センター（トピア）で行っています。会話、漢字、日本語能力検定試験の問題、日本語力のアップなどの個々のニーズに応じて、スタッフと学習者の1対1で、楽しく学んでいます。

サロンとは辞典によると、フランス語からきたことばで、「文化的社交の場」の意味だそうです。そのことばの通りこの日本語サロンを人々が集い、同じ場所で時間を共有して、日本語の勉強だけでなく、社交の場となるようにしたいと考えています。

今、サロンでは4か国から年代や職業もいろいろな方が学んでいます。各々の日本語習得レベルも学習目的も異なっているので、個々のニーズに応えるよう努めるのはもちろんですが、日本語の学習だけでなく、日常生活でよく使われる阿波弁の紹介や、季節に応じた日本の文化や習慣なども取り入れて、スタッフ全員でこれからも学習者が楽しく学べるよう応援していきたいと思えます。

今回はサロンで学んでいる方のメッセージを紹介します。

（佐藤 光枝）

「日本語の勉強は難しいけどおもしろい」

皆さまこんにちは。韓国から来ました権 浩（コン ホ）と言います。61歳になります。福岡に約1年住んだ後、この3月に徳島へ移ってきました。

母国では、2012年まで自治体の教育公務員として、古い建築物について学生に教えていました。日本では、在宅で木工と木のおもちゃについて研究しています。でも木工の練習ができる場所について、徳島の情報が少ないです。最近では東京の美術館の「おもちゃのコンサルタント」の通信教育も受講しています。

他に興味のあるのは楽器の演奏で、カウベル、ボンゴ、トライアングル、タンバリンなど、パーカッションの様々な楽器を演奏するのが得意です。

日本語サロンへは、この4月7日から、ほぼ連続19回にわたって参加していて、欠席したのはわずか1回だけなんです。日本語の勉強は、はじめは難しく感じたけど今は、おもしろいです。サロンへ来てよかったと感じています。ここへきて日本語を勉強することは、私の生活の一部になっています。（権 浩）

「日本語サロンで私の日本語はずいぶん上達した？」

私は南アフリカから来ました。レルー・ジョナサンと言います。私は4年くらい前に徳島へ来ました。南アフリカで、日本語のひらがなとカタカナを自分で勉強していました。徳島の海陽町で小学校と中学校のALTとして働いていました。その時には、十分ではありませんが、日本語で先生や生徒と話していました。

2か月前に徳島市に引っ越し、大学で勤めるようになってからは、同僚と英語で話していましたから、あまり日本語を話す機会がありませんでした。そんな時にサロンのことを知って、2か月くらい前からサロンに来ています。サロンでは、分かりにくい文法とかことばについて、先生に聞くことができます。サロンの終わりにしてくれる、阿波弁の紹介は便利で、楽しいです。

サロンで自由に話したいことを話したり、いろいろ聞くことによって、わたしの日本語はずいぶん上達したように思います。（レルー・ジョナサン）



海外便り

カンボジアでの活動とくらし

定年退職して早くも7年が過ぎ去った。2007年から नेपालでのボランティア。中学校での理科のゲストティーチャー。2009年からは JICA ボランティアで、タイの科学センターでの活動。今回は、2012年から2年間、カンボジア国立プレイベン中学校教員養成校で、生物地学のアドバイザーをした。

〈プレイベンの良いところ〉

首都プノンペンからメコン川を渡って東へ90kmの所に赴任地プレイベンはある。ここに住んでいて怖いと感じたことは一度もなかった。町の人たちはみんな友達。本当に人情豊かで親切な人ばかり。徳島と同じだと感じた。

朝ごはんは焼き豚どんぶりか具入りのおかゆを露店で食べる。とても安い値段で、とてもおいしい。昼食と夕食はメイドさんのカンボジア料理。これが最高の味。私は外地では日本食は食べないで、現地の料理を食べることにしている。これが一番おいしい。

〈私の活動〉

私の任務は「中学校教員養成校の教官への指導と支援」だ。これまで教官も学生も実験観察をしたことがなかった。虫眼鏡や温度計の使い方から始めて、顕微鏡や天体望遠鏡の使用法まで教えた。また、私の授業を見学してもらって、理科指導法の伝達もした。

また、教官や学生と一緒に蝶の採集や星空観察もすることができた。何をしてもみんな感動、感激してくれる。その姿を見ていて、日本では味わえない喜びを感じた。

私の理科教師としての知識と経験がそのまま生かせる活動であった。教官も学生も向学心が非常に強く、教えていてやりがいがあった。

〈これからの私〉

2年の任期を終えて8月に帰ってきたが、10月からバンコクのタイ日工業大学で学生を指導することになった。大学からの要請で「日本語・経営学科」で授業をする。私の勤務契約は労働許可や就労ビザの関係で1年単位というのだが、ここ当分の間（数年間）はタイ在住ということになりそうだ。

JTMの皆さんの活躍を祈ると共に、はるか常夏のタイから声援を送っています。

（真鍋 憲昭 JTM 会員）



地学教師へ天体望遠鏡の指導



生物教師（右端）と蝶の採集に

INFORMATION

◆会員数(2014年10月31日現在) 正会員数48名
 ◆入会随時受付中! 正会員…会の活動に参加し、ともに運営を行います。
 協力会員・団体…会の活動を支援する個人または団体

活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
*毎月第2土曜日13:30~15:00
〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇日本語指導部研修会
*毎月第3金曜日または土曜日
- ◇定例会 ◇特別研修会



日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
*毎週月曜日10:30~12:00
とくしま国際戦略センター(トピア)



にほんご寺子屋

- *毎週日曜日13:30~15:00
とくしま国際戦略センター(トピア)

就職のための日本語講座

2014年5月20日(火)~7月16日(水)

介護の日本語講座

2014年9月2日(火)~10月31日(金)

保護者のための日本語講座

2014年9月3日(水)~2015年3月4日(水)
*毎週水曜日13:30~15:00

漢字学習講座

2014年11月6日(木)~2015年1月22日(木)
*毎週月曜日、木曜日13:30~15:00

わーくびあ徳島

主催 公益社団法人徳島県労働者福祉協議会

徳島県アパレル縫製工業組合日本語集合研修

2014年8月7日(木)~9月4日(木)

日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
入門から上級まで、会話や日本語試験対策などニーズにあった学習プランで教えます。
- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール
jtmtokeu-lesson@mbk.nifty.com まで。

JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima

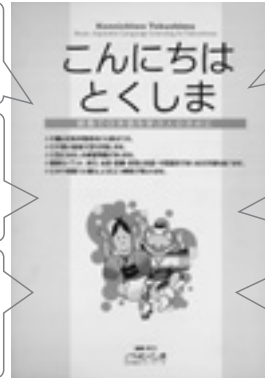
こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために

本書は初級学習者向けの教材です。

文型に対応した練習問題があります。

日本や徳島の暮らしに役立つ情報が得られます。



日本語の基礎文型を学習することができます。

イラストがたくさんあり、わかりやすいです。

会話と語彙、表現の英語・中国語訳があり、自習学習を助けます。

子どもと暮らすための こんにちは とくしま

徳島で子どもを育てる人のための日本語教材



- ・全12課
- ・季節や身近な場面に合わせてどの課からでも学習できます。
- ・子育てを通して、まわりの人とうまくコミュニケーションできるようになるための表現が学習できます。
- ・学校の通知文の読み方や返事の手書き方の練習ができます。
- ・生活情報がクイズ形式で学習できます。
- ・学校や生活に役立つ情報が得られます。

●ご購入、お問い合わせ JTMとくしま事務局

ご支援をいただきました

- 徳島中央ロータリークラブおよび
四国地区ロータリー財団委員会より
地区補助金支援をいただきました

あとがき

今年は毎週のように台風に見舞われた年でした。しかしそのたびに、事務局には県外の方々から「徳島、大丈夫ですか?」とのメールをいただき、人の温かさをしみじみと感じた年にもなりました。

ご心配くださった皆さんにも、今号を通して、JTMの日々の活動や地域で暮らす外国人の方々の様子をご紹介します。

(辻 暁子)

発行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山満十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・谷口 真弓・玉置 房・辻 暁子
長町 順子・村松 幸子・杜 美智・安山 政子

印刷/徳島県教育印刷株

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

E-mail jtmtokeu@nifty.com

URL http://homepage2.nifty.com/jtmtokeu/